



だより



R8.6.30 Vol.13

暑さ指数

校長室を出たところに、養護教諭が暑さ指数の表を掲示しています。ふと見ると、子供たちがそれを見ながら、「今日の暑さは大丈夫か？」とチェックしていました。

教師が「今日は遊んでいいです！今日はダメです！」と指示するのは簡単です。管理もしやすいです。ただそれでは子供の判断力は育ちません。今年度、養護教諭と相談し、自分たちで判断する力を育てていこうと職員で共通理解を図りました。もちろん、危険な暑さになった場合はストップをかけますが、自分の体調や天候、そして暑さ指数を基にして自分たちで考え、判断し活動できる子供になってほしいです。それはきっと万一の判断にも繋がります。



(さっきのポーズもう一回して！とお願いしました。笑)→

今日が一番若い！！

雑誌だったかネット記事だったか、忘れましたが、すてきな言葉に出会いました。「今日が一番若い！」最近、同世代との雑談でも、「人生100年時代なんて言われてるけど、健康寿命ってそんなにないよな？」そんな会話になります。いつの頃からか、残りの人生から逆算して意思決定をするようになりました。それはそれでいいかなと思っているのですが、老いている自分前提でした。前述の言葉に出会ったとき、まさに「目からウロコ」。「今日が一番若い！」言われてみれば確かに！明日の自分より確実に若い自分が今、いるんですよね。そう思うと、億劫になっていたことも「今日が一番若いんだから！」と手をつけている自分がいました。そしたら次の行動も起こしていました。「行動活性化」とか[ドミノ効果]って言うらしいです。言葉との出会いって侮れませんね。(笑)

四方山話松蔭 ver. 其の十二(三世代運動会に思う)

去る6月20日、体育館で、公民館主催「三世代運動会」が開かれました。開会挨拶でも触れましたが、松蔭小の頭巾50年の歴史のように、私の記憶を辿ると、この運動会もまた30年以上続いている行事ではないかと思っています。(名称は変わっているかもしれませんが。)三世代が同じ空間と時間の中で一緒に活動する姿は決して当たり前ものではありません。昭和初期～中期ならいざ知らず、私が生まれ育った昭和後期くらいからは少しずつその機会は減ってきたように感じます。都市部ではなおさらでしょう。

親に子に孫にと三世代が共に活動する様子を見ながら感じたこと。それはこの地域の子供たちが安定している背景にはこうした確かなこのコミュニティの存在があるのではないかということです。人として大切にしたい価値や文化が有形無形問わずに自然に受け継がれている。その空気を子供たちが日常的に感じられるのは何よりの財産だと思います。さすがに三世代同居の形は少なくなりましたが、近くにその存在や空気を感じられる環境は子供たちの成長にとって大きな力になります。

先日、知り合いとの会話の中で「田舎の不便さ・選択肢の少なさ」について考えることがありました。そんな思いを頭の片隅に置きながら参加した運動会でもありました。確かに今後、自分が高齢になっていく中で、医療や介護の心配が出てくるかもしれない。少子化が加速度的に進んでいる八幡浜での子育てや就職を不安視する若者も増えてくるかもしれない。マイナス要素は少なくありません。しかし、このコミュニティにはそれを補う力があるのではないかと感じています。少々話はそれますが、去年は昭和100年とされた年でした。100年前の都市部と今の八幡浜。今の八幡浜の方が、ずいぶん便利で過ごしやすいんじゃないかなとふと思いました。何をどこまで求めるか。結局のところ、住めば都になるかどうかは自分の心次第なのかもしれませんね。

----- 切り取り線 -----

便りの感想や学校への要望等ありましたら、お聞かせください。今後の学校経営・運営に役立てていきたいと思っています。